

◇取材随記◇

R3. 11. 30

みなさんは、ビクター・デルノア氏、そしてデルノア通りをご存じですか。

デルノア氏は、終戦後の1946(昭和21)年9月に、32歳で占領軍長崎軍政部の司令官として着任し、占領軍のリーダーでありながらも戦争に反対する考えを持ち、1948年(昭和23)年の第1回の平和祈念式典にあたる文化祭で「戦争は無用の長物である。二度とこのようなことが起こってはならない」という異例のメッセージを残しました。

長崎市民のことを思い、慕われていたデルノア氏のことを知る愛宕病院の宇宿さんに、Peace by Peace NAGASAKIの前田さんがインタビューをしました。

デルノア通り

長崎市では、被爆70年に先駆けて2014(平成26)年に、デルノア氏の功績を広く知ってもらうため「デルノア通り」の看板を復刻しました。
※介護老人保健施設サンブライト愛宕前



取材の様子

宇宿さんは、当時を懐かしみながら「この地が、長崎の人とアメリカ人の交流の場であったことは感慨深い。長崎の人たちにも、ぜひデルノア氏のことを知っていただきたい。」と語っていました。



当時の愛宕療養所(現在の愛宕病院)のすぐ近くに、デルノア氏は住んでいました。



前田さんのコメント

医療法人博和会の宇宿勝博さん(84)から戦時中、戦後の話を伺うことで、愛宕のデルノア通り周辺は、いかに外国人との交流が盛んな景勝地であったのか想像が膨らみました。

